

Creative Application A16

メディア実装1

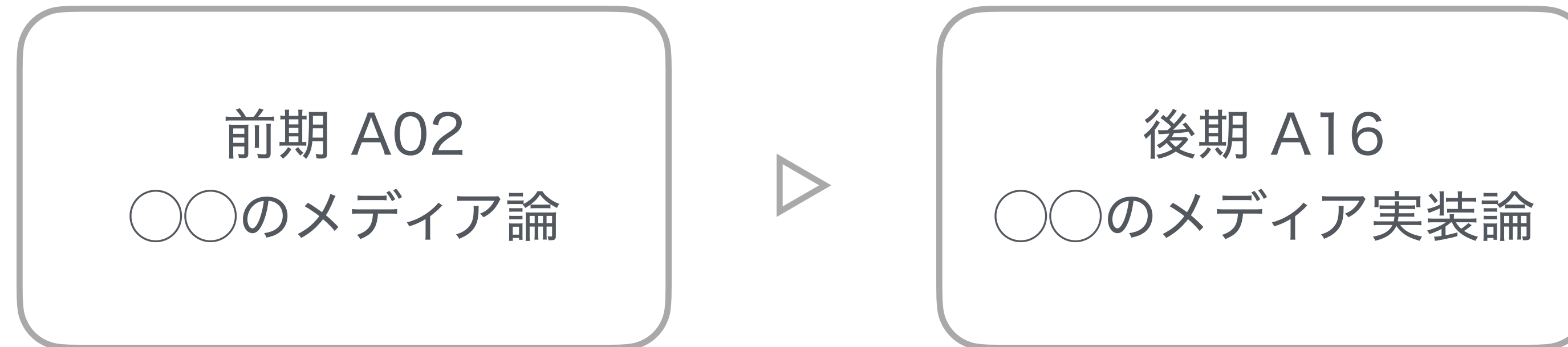
「ノート」 自分の思考を形にする

2023年度

渡邊 賢悟 (渡辺電気株式会社)

受講のてびき

- ・ 本資料は作成者の解釈が含まれます, 答えのない議論があります
- ・ 前半で1テーマの紹介, 後半でテーマを深める議論を行います
- ・ 前期と後期がリンクしています. 予習復習の参考にしてください



本日のテーマ

- ▶ **自分の思考を顕し、フィードバックする**

前期概要

- ▶ 個人の思考の発見
- ▶ 各自の考えを聞いて社会を作ろうとする流れ

- ▶ Q. 自分は自分の考えを把握できているか？
- ▶ A. できていない. その手段が不足している

- ▶ 個人の尊重は良いが、**自身の無理解が問題になる**

既知と未知の自分

- ▶ ジョハリの窓による4つの区分. 左側領域を増やしたい

誰もが知る自分

自 既知
他 既知

自覚のない自分

自 未知
他 既知

自分だけが知る自分

自 既知
他 未知

誰も知らない自分

自 未知
他 未知

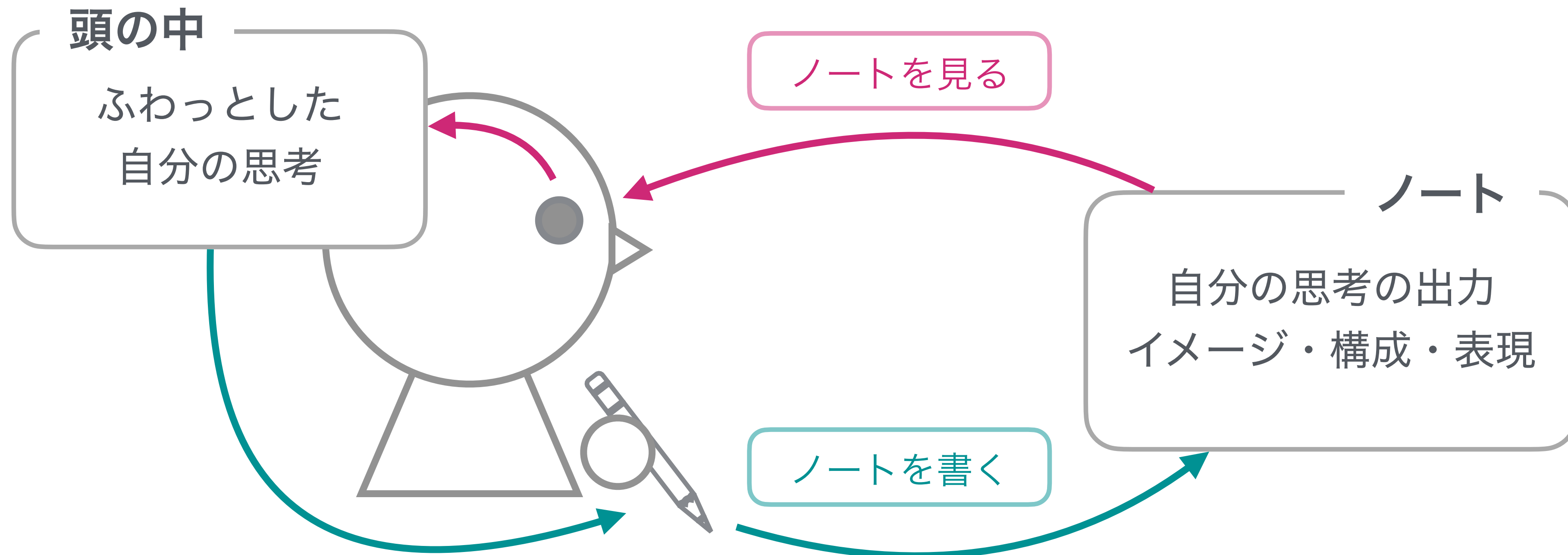
既知の自分をふやす

- ▶ **既知部分を増やす**と思考の把握が進む. どうすると増やせるのか?



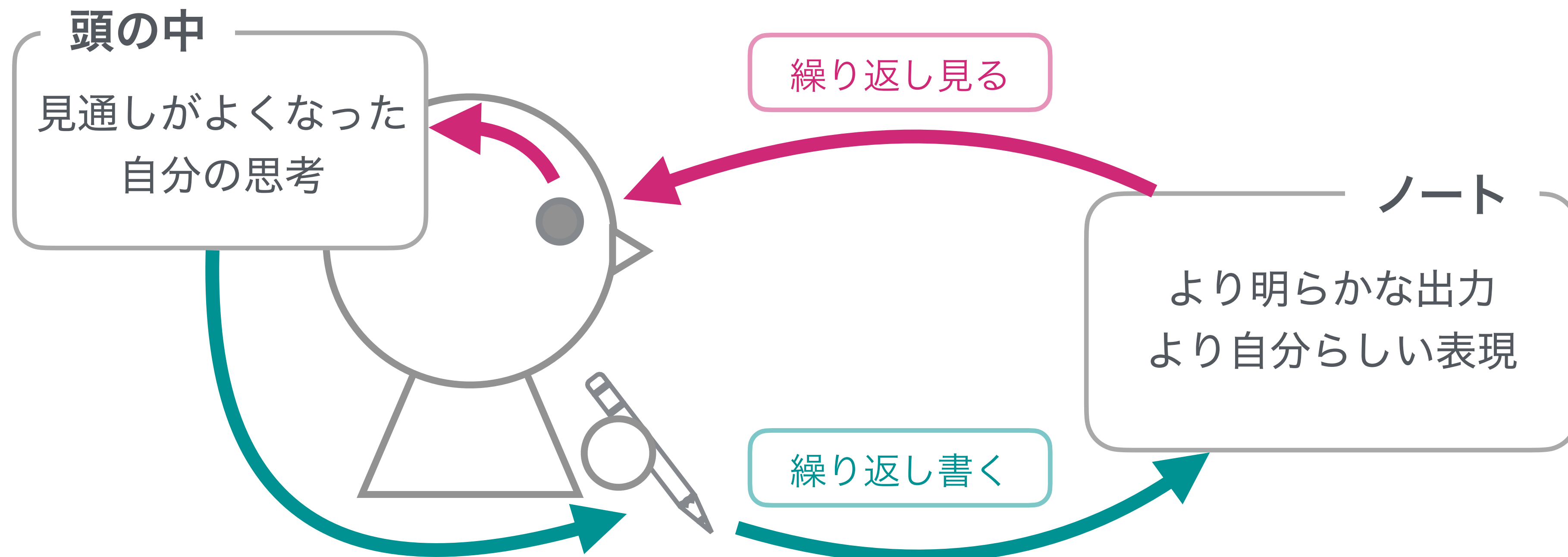
ノートを書く

- ▶ 思考のアウトプット = 自分の可視化
- ▶ ノートには存外気づかされる. セルフフィードバックが発生する



ノートを通じた思考の研磨

- ▶ ノートの頭の中の思考を更新
- ▶ さらにノートを繰り返すと**自分の思考の見通しがよくなる**



まとめ

- ▶ 個人の思考は重要だが、思った以上に不明瞭
- ▶ 自分自身の思考の把握を広げていくことが大事
- ▶ ノート
 - ▶ 考えていることのアウトプット
 - ▶ アウトプットを見ると気づくことが多い
 - ▶ 繰り返すことで自分の思考を明らかにしていける

本日の議論・考察一助

- a. ノートが始めるきっかけはどう掴もうか
- b. ノートの他, 自分の思考をクリアにする方法はなんだろうか
- c. **具体的にどのようなノートをつくるかの議論**

次回予定

メディア実装2

「メッセージング」 主客を交差させる

参考文献

1. 藤田一照, 「アップデートする仏教」, 幻冬舎, 2013
2. 藤田一照, 永井均, 山下良道, 「仏教3.0を哲学する」, 春秋社, 2016
3. 飲茶, 「史上最強の哲学入門」, 河出文庫, 2015
4. 飲茶, 「史上最強の哲学入門 東洋の哲人たち」, 河出文庫, 2016
5. 森田真生, 「数学する身体」, 新潮社, 2018
6. 西田幾多郎, 「善の研究」, 青空文庫, 1979
7. 藤田正勝, 「日本哲学史」, 昭和堂, 2018井筒 俊彦, 「イスラーム文化 - その根底にあるもの」, 岩波書店, 1991
8. 竹田青嗣, 「現象学入門」, NHK出版, 1989
9. 岡本 裕一郎, 「いま世界の哲学者が考えていること」, ダイヤモンド社, 2016
10. 西垣 通, 「AI原論 神の支配と人間の自由」, 講談社選書メチエ, 2018
11. マルクス・ガブリエル著, 清水 一浩訳, 「なぜ世界は存在しないのか」, 講談社選書メチエ, 2018
12. アレックス・オスターワルダー他著, 小山龍介訳, 「ビジネスモデル・ジェネレーション ビジネスモデル設計書」, 翔泳社, 2012
13. ティム・クラーク他著, 神田昌典訳, 「ビジネスモデルYOU」, 翔泳社, 2012
14. ティム・クラーク、ブルース・ヘイゼン他著, 今津美樹訳, 「ビジネスモデル for Teams」, 翔泳社, 2012
15. 沼上幹, 「組織デザイン」, 日本経済新聞出版, 2004